

子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究(3)

—母親クラブの活性化と普及における児童館の役割—

母子保健研究部 斉藤 進
研究企画・情報部 小山 修・中村 敬
嘱託研究員 山口 忍(順天堂大学医療看護学部)
臺 有桂(横浜市立大学医学部)
森川 洋(東海女子短期大学)
佐倉市役所 牛玖 幸一
児童健全育成推進財団 阿南 健太郎
東村山市立栄町児童館 鈴木 昌弘
全国地域活動連絡協議会 松本 健一
子どもと親のネットワーク 田所 裕子
習志野市役所 大久保 美恵
NPO法人ハンズ・オン 西川 正
厚生労働省児童健全育成専門官 柳澤 邦夫

要 約

母親クラブの普及と活性化の方策を検討する目的で、母親クラブと両輪である児童館の役割について、都道府県、市区町村を対象に質問紙を用いた郵送調査を実施した。併せて、児童館の役割を検討するために、児童厚生員の研修会を実施した。調査は市区町村 875 ヶ所 (48.5%)、都道府県 40 ヶ所 (87.2%) から回答があり、研修会のグループワークの結果等とあわせて検討した。その結果、普及と活性化のためには、母親クラブの PR など情報提供が不足していることがわかった。また、児童館との連携を強化し、児童館が地域づくりの視点で地域と母親クラブに関わることが大切であることがわかった。これらから、今後の児童館職員のスキルアップが重要である。

キーワード：地域組織 母親クラブ 活性化 児童館 児童厚生員

Role of Mother's Clubs and Children's Centers in Child-raising Assistance (3) —Role of Children's Centers in the Vitalization and Spread of Mother's Clubs—

Susumu SAITO, Osamu OYAMA, Takashi NAKAMURA, Shinobu YAMAGUCHI
Yuka DAI, Hiroshi MORIKAWA, Koichi USHIKU, Kentaro ANAN, Masahiro SUZUKI
Kenichi MATSUMOTO, Yuko TADOKORO, Mie OKUBO,
Tadashi NISHIKAWA, Kunio YANAGISAWA

Abstract : In order to consider the tactics for spreading and vitalizing mother's clubs, a mail investigation using a questionnaire was administered to prefectures, cities, wards, towns, and villages to consider the role of children's centers and mother's clubs that complement each other. A training session was also held with children's social workers in order to consider the role of children's centers. Survey responses were received from 875 cities, wards, towns, and villages (48.5%) and 40 prefectures (87.2%) and were considered together with the results of training workshop group work. The results showed that PR and information provided about mother's clubs were insufficient to ensure spreading and vitalizing mother's clubs. Additionally, the results showed the importance of children's center involvement in the community and mother's clubs from the perspective of building communities. Improving the skills of children's center workers will be important for the future.

Keywords : Community Organizations, Mother's Clubs, vitalization, Children's Centers, Children's Social Worker

I. 目的

昭和23年から児童の健全育成を目的にボランティア活動を展開している母親クラブの活動の一層の活性化・強化と普及を図り、地域の子育て支援を進める方策を検討するために、一昨年度の母親クラブ調査ならびに昨年度の児童館調査による2年間の研究成果^{1) 2)}に基づき、児童館との連携に着目し、児童館との連携や児童館の役割を明確にすることを目的とする。

II. 方法

1. 母親クラブと児童館調査

母親クラブと児童館の連携のあり方や児童館による支援について検討するために、母親クラブと児童館に関する調査は自記式調査票を用いた郵送調査法により平成21年2月に実施した。対象は市区町村および都道府県の児童福祉担当課とした。

調査内容は、母親クラブの状況として、母親クラブの有無、活動内容、支援内容、活動満足度、活動の効果、活動への期待、母親クラブがあつて良かったこと・困ったこと。母親クラブがないところでは、必要性、活動がない理由、母親クラブへの期待、可能な支援、支援できない、また、必要ない理由等をたずねた。また、子ども会活動、子育てサークル、子育てネットワークの各活動への支援状況、児童館については、指定管理者制度の導入、母親クラブ等の地域組織との連携状況、他の行政機関との連携、児童館の役割と期待についてたずねた。

なお、都道府県については、市区町村とは別に調査票作成し、地域組織活動の把握、補助金、次世代育成支援行動計画への記載、連絡協議会と事務局、母親クラブの必要性についての内容を追加し、調査を実施した。

集計は、指定都市、中核市、一般市、特別区、町、村ごとに集計し、共通項目については、都道府県の集計を追加した。

2. 児童厚生員研修プログラム

平成18、19年度の研究結果を踏まえて、研究メンバー間の討議により研修プログラムを立案し、平成20年11月26日～27日の2日間に実施した。研修会の運営、グループワークの記録等を検討し、児童厚生員の役割と母親クラブ支援の課題について検討した。

III. 結果

1. 母親クラブと児童館調査（市区町村）《都道府県》

市区町村調査については、全市区町村(1804ヶ所)中、875ヶ所から、都道府県は40ヶ所から回答が得られた。市区町村調査の有効回収率は48.5%、都道府県調査は87.2%であった。

1.1. 母親クラブの状況

母親クラブの有無について、市区町村全体では、「母親クラブなし」(53.8%)が半数を占め、「母親クラブあり」(40.9%)は4割と若干少なかった。「中核市部」(83.3%)、「一般市部」(54.9%)では半分以上を占めているが、「町部」(28.1%)「村部」(17.1%)は低くなっていた(表1)。

母親クラブへの支援内容についてみると、市区町村全体では、「資金の援助」(64.8%)が最も高く、次いで「情報の提供」(50.8%)、「イベントへの呼びかけや協力」(41.3%)、「児童館との連携を促している」(40.5%)、「施設や物品の貸与」(35.5%)、「事務局を担っている」(29.9%)の順であった。一般市部では「資金の援助」(72.4%)が、町部では「情報の提供」(60.4%)が最も高かった(表2)。

活動内容についてみると、市区町村全体では「親子及び世代間交流・文化活動」(95.8%)が高く、以下「児童事故防止のための活動」(50.3%)、「児童養育に関する研修活動」(48.3%)で、「日曜等児童館利用活動」(7.8%)は低かった。また、都道府県も同傾向であったが、「児童事故防止のための活動」(83.8%)が市区町村全体より高い比率を示していた。「親子及び世代間交流・文化活動」では、一般市部(97.7%)、町部(92.1%)とも高率であったが、「児童事故防止のための活動」と「児童養育に関する研修活動」について市部に比べ町部が低い傾向が見られた(表3)。

活動に対する満足度では、市区町村全体でみると「やや満足している」(49.4%)、「満足している」(36.9%)の順で、あわせて9割弱を占めていた。一般市部、町部とも全体と同傾向であった(表4)。

活動の効果についてみると、市区町村全体では「子育て中の親同士の交流の機会ができた」(87.2%)が最も高く、以下「地域活動で子どもと大人が顔見知りになる機会が増えた」(44.4%)、「子育て中の親の相談の機会、場が確保されたこと」(40.8%)、「子育て中の親にとって、よりどころとなる活動となっている」(39.1%)、「地域への安心、安全の取り組みがなされるようになったこと」(35.2%)の順であった(表5)。都道府県では、「子育て中の親同士の交流の機会ができた」(77.1%)が最も高く、以下「地域への安心、安全の取り組みがなされるようになったこと」(71.4%)、「子育てに関する研修・講座が実施されるようになったこと」(60.0%)、「子育て中の親の相談の機会、場が確保されたこと」(45.7%)、「地域活動で子どもと大人が顔見知りになる機会が増えた」(45.7%)、「子どもに対する犯罪被害の防止につながっている」(37.1%)の順で、第2位、3位に「地域への安心、安全の取り組みがなされるようになったこと」(71.4%)、「子育てに関する研修・講座が実施されるようになったこと」(60.0%)があり、市区町村全体に比べ高い傾向を示していた。一般市部は全体と同傾向であったが、町部は「子育て中の親にとって、よりどころとな

る活動となっている」(44.6%)が第2位であった(表5)。

活動への期待では、市区町村全体でみると「子育て中の親同士の交流の機会の確保」(63.7%)が最も高く、以下「子育て中の親の相談の機会、場の確保」(43.3%)、「子育て中の親のよりどころとなる活動」(43.3%)、「住民の子育てに対する関心への高まり」(39.9%)、「地域への安心、安全の取り組み」(37.2%)、「地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること」(34.6%)、「子育てに関する研修・講座の実施」(31.8%)の順であった(表6)。都道府県をみると「子育て中の親同士の交流の機会の確保」(61.1%)が最も高く、以下「地域への安心、安全の取り組み」(61.1%)、「住民の子育てに対する関心への高まり」(55.6%)、「子育て中の親の相談の機会、場の確保」(41.7%)、「子育て中の親のよりどころとなる活動」(41.7%)、「子どもに対する犯罪被害の防止」(41.7%)、「子育てに関する研修・講座の実施」(38.9%)、「地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること」(38.9%)、「子育てに関するイベントへの参加者の増加」(33.3%)の順で、「地域への安心、安全の取り組み」(61.1%)と「子どもに対する犯罪被害の防止」(41.7%)が高く、市区町村全体と異なる傾向を示した。一般市部および町部は、全体と同傾向であった(表6)。

1.2. 母親クラブがない地域について

母親クラブがない市区町村に母親クラブ活動の必要性をたずねたところ、「わからない」(60.9%)が半分以上を占め、「必要ないと思う」(21.5%)が「必要だと思う」(16.3%)より若干高い比率を示した(表7)。

「母親クラブの活動が必要だと思う」と回答したものに、活動がない理由をたずねると、「当事者からの働きかけがなかった」(50.0%)は半分を占め、「行政で積極的に育成しようとしなかった」(31.0%)、「他の地域組織活動で充分だった」(28.6%)、「特に必要性を感じなかった」(17.9%)の順であった(表8)。

また、母親クラブへ期待することでは、「子育て中の親同士の交流の機会の確保」(73.8%)が最も高く、以下「子育て中の親の相談の機会、場の確保」(52.4%)、「子育て中の親のよりどころとなる活動」(48.8%)、「住民の子育てに対する関心への高まり」(32.1%)、「地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること」(32.1%)の順であった(表9)。なお、母親クラブが設立された場合にどの程度支援が可能かたずねると、「積極的な支援をする」(42.9%)が4割強を示したが、「わからない」(40.5%)、「支援したいができない」(11.9%)もあわせて半分を占め、「支援しない」はいなかった(表10)。「わからない」および「支援したいができない」と回答したものに、その理由をたずねると、「検討する時間がない(深く検討していない)」(27.3%)が高く、「財源がない」(25.0%)、「優先すべき他の事業がある」(15.9%)の順であった(表11)。

「母親クラブの活動が必要ない」と回答したものにその理由をたずねると、「他の組織があるから」(32.7%)が高く、「自主活動だから」(23.1%)、「住民からの需要がないから」(20.5%)の順であった(表12)。

1.3. 地域組織活動への支援

子ども会の活動に対して所管課が行っている支援について、市区町村全体でみると「イベントへの呼びかけや協力」(35.2%)が高く、以下「情報の提供」(34.1%)、「資金の援助」(33.4%)、「事務局を担っている」(29.5%)、「施設や物品の貸与」(27.7%)の順であった(表13)。

子育てグループ(サークル)に対して、「情報の提供」(49.0%)が高く、以下「施設や物品の貸与」(37.7%)、「イベントへの呼びかけや協力」(35.4%)の順であった(表14)。

子育てネットワークに対する支援では、「情報の提供」(33.0%)が高く、次いで「イベントへの呼びかけや協力」(25.7%)であったが、「子育てネットワーク活動がない」(30.7%)も高かった(表15)。

1.4. 児童館の状況

児童館の有無について、市区町村全体では「ある」(60.2%)が「ない」(39.1%)に比べ高かった(表16)。児童館ありは、一般市部(80.0%)が8割と高値を示したが、町部(43.3%)、村部(19.7%)は低かった(表16)。指定管理者制度の導入についてみると、市区町村全体では「導入していない」(71.7%)が高く、「導入していない」割合は、一般市部(65.5%)、町部(89.1%)で一般市部が高い傾向が見られた(表17)。指定管理者制度は町村部の導入割合が低いようであった。

児童館に指定管理者制度を導入している場合、その91.8%が市町村に住所のある団体であると回答していた(表18)。指定管理者の選考基準に地域との連携に関する観点が盛り込まれているかどうかについて、「盛り込まれている」(82.2%)がほとんどであった(表19)。

児童館と地域組織活動との連携状況について、「ある程度図れている」(65.1%)が最も高く、「とても図れている」(24.7%)、「あまり図れていない」(9.6%)の順で、9割は連携が図れていると回答していた(表20)。他の行政機関や公民館との連携に就いては、「ある程度図れている」(60.5%)が最も高く、以下「あまり図れていない」(21.0%)、「とても図れている」(8.1%)、「全く図れていない」(4.8%)の順で、「とても図れている」(8.1%)と「ある程度図れている」(60.5%)をあわせて7割となっていた(表21)。

1.5. 母親クラブに対する児童館の役割と期待

母親クラブに対する児童館の役割について、市区町村全体では「会場を提供する」(31.5%)が高く、以下「事業の共催」(29.2%)、「活動へのアドバイス」(24.3%)、

「コーディネーターとなる」(10.4%)の順であった(表22)。都道府県は「活動へのアドバイス」(58.5%)、「会場を提供する」(58.5%)が高く、次いで「コーディネーターとなる」(41.5%)、「事業の共催」(19.5%)、「技術的支援をする」(12.2%)の順で、市区町村とは、役割に対する考え方に若干の相異がみられた(表22)。

児童館への期待についての自由記述は、表29のとおりで、「地域連携に関すること」(46件)、「施設拠点としての強化に関すること」(41件)、「事業の充実に関すること」(26件)、「人材に関すること」(22件)、「広報に関すること」(13件)であった。

1.6. 都道府県での状況

地域組織活動の状況把握について、「把握している」(4.8%)および「概ね把握している」(61.9%)があわせて7割弱で高く、「把握していない」(33.3%)は低かった(表23)。

地域組織活動への補助・助成金については、ほとんどが「ある」(83.8%)と回答し(表24)、次世代育成支援対策行動計画上に約半数が「母親クラブの記載あり」(51.4%)がとなっていた(表25)。

都道府県レベルの母親クラブの連絡協議会の有無について、約8割が「ある」(75.7%)と回答し(表26)、その事務局は「単独で事務局を設置」(28.6%)が高く、以下「都道府県立児童館で担当」(21.4%)、「都道府県庁で担当」(17.9%)、「その他」(17.9%)、「都道府県社会福祉協議会で担当」(7.1%)、「市町村立児童館(青少年センターを含む)で担当」(7.1%)の順であった(表27)。

母親クラブのない地域に今後このような活動が必要かどうかとすると、「とても必要」(16.7%)、「必要」(61.9%)でほぼ必要性があると回答しており、「あまり必要ではない」(4.8%)は低かった(表28)。

2. 児童厚生員研修プログラム

2.1. 研修プログラム

研修プログラムは、表30のとおりで、該当年度になってからの案内であったこともあり、参加者は7名と少なかった。

2.2. 研修会の概要

研修会は、(1)開会行事に引き続き行われ、その概要は次のとおりであった。

1日目(平成20年11月26日水曜日)

(2)「児童健全育成の動向」

児童健全育成をめぐる昨今の動向として、厚生労働省、児童健全育成推進財団、全国地域活動連絡協議会から情報提供を行った。厚生労働省からは平成21年度予算要求の概要についての説明があり、児童健全育成推進財団からは、全国の児童館の動向について説明があった。近

年、小学生が対象の中心であった児童館活動が、乳幼児と中高生の双方にその対象が広がってきていること。また中高生を対象にした活動に特化した事例も紹介された。また、児童館で指定管理制度を導入しているところが約4割にのぼり、早いところでは2クール目に入っていること等の情報提供があった。母親クラブの全国組織である全国地域活動連絡協議会からは、同協議会の成り立ちや組織についての説明があった。

(3)基調講演「児童館の地域支援でかわる子育て環境」

基調講演では、伝統的地域組織の活動は、活動評価を十分に行っていないことが多く、活動内容に変化がないと指摘し、その例として役員や事業が固定化され、年次総会の資料も年度の数字が違うだけで、役員名や事業内容、予算内容がほぼ同じという状況を紹介した。このことから事業を行うことが目的ではなく、事業を行って何を目指すのかを明確にすることが大切であると説明した。また、行政が事務局を担っている場合の地域組織との関係については、立場と役割を明確にすることの重要性を指摘した。地域組織の自立を目指すのであれば、そのプロセスを小出しにしないで、ステップを明確にして、全体像をあらかじめ示すことが必要であることを述べていた。歴史ある活動こそ世代交代が重要で、役員等の後継者や新入会員の不足により、活動が停滞することが懸念されるとのことであった。

(4)「事例検討—児童館と地域組織活動の連携・支援—」

事例発表

東京都の母親クラブの連合組織である東京都地域組織活動連絡協議会会長の事例発表で、母親クラブの会員は、その地域で生活していることから地域人材や地域資源等の地域に密着した情報を熟知していると述べ、児童館が事業を企画する際のアドバイザーとして、事業を実施する際のマンパワーとしても活躍している事例を挙げ、母親クラブと児童館との連携は児童館にとってもメリットがあると指摘した。また、児童館職員の異動がある度に、職員との信頼関係を構築することの大変さを訴え、「母親クラブは地域の児童館の味方である」との一言だけでも引継ぐことを要望した。

昭和町児童センターの報告では、児童館の組織や取り組み概要、中央館で母親クラブの事務局を担っている側面からの支援状況についての発表があった。母親クラブの会員は高齢化しているが、たこ作り講習会など様々な事業を精力的に展開しており、事業へ参加する子どもも多い。また、事業に参加する子どもたちの親は、母親クラブに関心がなくても、子どもたちが参加できる事業には関心が高く、これまで続けてきた事業がなくなることには抵抗があり、母親クラブを支えることになっている。長年の努力によって、なくてはならない事業にまで認知された実績をもとに、母親クラブがなくなると必然的に

事業がなくなることを訴えることにより、年に2、3人の新入会員があり、組織の人的活性化が図られていると述べていた。

2日目(平成20年11月27日 木曜日)

(1)「パネルディスカッション 児童館と地域組織活動の明日をつくる」

東村山市立栄町児童館館長から、利用者との信頼関係を構築しながら、利用者の力をボランティアとして活用し、児童館活動を活性化する方法についての報告があった。また、茨城県地域活動連絡協議会会長から、行政主導で結成した母親クラブの活動を母体に、児童館の建設運動により児童館が設置され、さらに児童館の指定管理者制度の導入に向けたNPOの設立、そして指定管理者としての児童館の運営の中で得た貴重な体験を述べた。

児童健全育成推進財団の阿南氏は、指定管理者制度が導入され、選考の過程で様々な事業を展開する提案が多く、また実際に指定管理者になったら、提案したとおりバラエティー豊かな事業を展開している事例や状況を報告した。このことから事業を実施することが目的になってしまい、事業を実施することによって子どもの健全育成にとって何を目指し、それが達成できたのか否かが検討されないまま事業花盛りという状況にあると述べた。また、これに伴い、職員主導で事業を実施するため、親としての育ちや地域ボランティアの養成の機会が失われていることも危惧されると指摘した。

(2)「児童館による地域組織活動との連携課題を探る」グループワーク

各地の児童館職員5名でグループが構成された。それぞれ地域組織活動への関与の仕方とその度合いが難しいとの課題を抱えていた。5名のうち2名は指定管理による館長で、指定管理団体の職員が、地域の地名や地域のしきたり、地域の組織など、地域のことを知らない場合があり、地域と連携した活動がなかなかできないとの報告もあった。また、受託を受けた施設以外の行政施設との連携も弱い点が大きな課題であると述べていた。

グループワークは、模造紙の記録シートと付箋紙を使用し、最初のシートに「うまくいかなかったこと、問題点、こうしたらいいのに！」を内容とする付箋紙の記録を用いて現状整理を行った。そして、【仲良くなるためには】【地域との連携を図るには】【施設利用上の留意点】の3点についてまとめ、次いで「問題の解決策」を検討し、「児童館、母親クラブ連携向上のポイント」を抽出した。

2.3. 児童館の現状と課題(グループワークの内容)

＜現状と課題＞

グループワークの内容についての記録を表31に示した。

「うまくいかなかったこと、問題点、こうしたらいいのに！」についての意見を付箋紙に書き出した結果、ま

ず「利用者と職員の関わり方」、「あまり“あいさつ”がない」、「なかなか顔見知りになれない」などの地域住民とのコミュニケーションが不十分であることから、これを「仲良くなるためには」として、解決策検討の第1のサブテーマとした。

次に、「職員が地域(地元)を地理的、人的な面で知らない」、「地域との連携(市民館や学校、町会)がまだ弱い」、「行事中心で広く声をかけていないなど、地域組織を育成する認識に欠けている」、「サークルへの支援について、職員が共通の認識をもてない」など地域の団体・組織との連携が不足していることから、これを「地域との連携を図るには」として第2のサブテーマとした。「勝手に倉庫に物を置いていく」、「使う物などを出すのに嫌がる職員」「勝手に物を使うことに問題あり」など利用者のマナーについての意見から「施設利用上の留意点」を第3のサブテーマとした。

解決策について書き出し、KJ法で整理検討した結果、サブテーマ①の仲良くなるためには、「こちらから発信する」、「元気なあいさつ」、「笑顔で接する」、「ふだんから、お互いの活動に顔を出す」、「地域商店で買い物をする」、「顔と名前を覚えよう」など児童館職員の日常の態度が重要であること。②の地域との連携を図るには、「人間関係を作る」、「地域資源を発掘する」、「地域のキーパーソンと親しくする」、「地域の人のネットワークを大切にすること」、「地域の行事にすすんで参加する、協力すること」などが必要であること。また、③の施設利用上の留意点では、「約束事が必要」、「言いにくいことも笑顔でサラッと伝える」、「ルールを明確に表記し、手順をことわり書きなどで掲示すること」などがあげられ、その解決策がまとめられた。

＜連携のポイント＞

これらのグループワークの結果に基づいて、児童館と母親クラブの連携のポイントとして「児童館職員」、「母親クラブ・利用団体」、「施設」の3つの視点から検討した。児童館職員については、「地域を好きになれる」、「地域に詳しくなる(地域の特徴、地域の人)」、「感謝の気持ちも常に言葉で表す」、「問題がおきても一緒に考えようという姿勢が大切」、「常に問題意識を持って」など地域への視点とかわり方の重要性が挙げられた。また「コミュニケーション術の向上」、「職員同志が仲良くなる、協力する」、「コーディネーターとしての素養」、「たえずスキルアップ」などの職員資質の向上の重要性が提起された。

母親クラブについては、「どんな事をサポートしていったら良いか、代表の方とのコミュニケーションを大切に」、「ルールを守る」、「児童館のあり方を理解してもらう」、「しかたないからやっているではなく、楽しんでやってもらえたらと思う」などがまとめられた。施設については、「地域の情報提供の場」、「施設の整備に努める」、「来館しやすい雰囲気作り」などがだされた。

このグループワークから、「地域資源を活用して児童館、母親クラブの連携強化、活動充実を図るための素材」として【施設・建物】、【店】、【人（職種）】、【プログラム・事業名】が重要であるとの示唆があったが、時間の関係で各自の持ち帰りとなった。

IV. 考察

1. 母親クラブの普及と活性化

1.1. 活動の普及

母親クラブ活動のない市区町村では、「わからない」の割合が過半数を超えて高く、また母親クラブには「育児中の親に対する交流の機会」や「場の確保」を期待する一方、「当事者からの働きかけがない」、「検討する時間がない」、「財源がない」の理由で、母親クラブの育成や支援を躊躇する実態が明らかになった。同時に、自治体で母親クラブのイメージが持てていないことも、大きい要因であることがうかがえる。活動の実際や効果が見えないと必要性を感じにくく、クラブの育成、支援につながりにくい。従って、母親クラブの先進的な事例や、発展段階ごとの事例を発信し、母親クラブが存在しない地域に活動のイメージを伝えていくことや活動を行政担当者へ理解させることが大切で、活動成果を使った内容の情報提供やPRなど広報活動が必要であると考えられる。

母親クラブの活動への支援内容では、「市部」において「資金の援助」の割合が高く、人口規模の小さい「町村部」では、「資金の援助」の割合よりも、「情報提供」、「施設や物品の貸与」が高い割合を示していた。従って、母親クラブの存在には、資金の援助(財政的な根拠)が大きな役割を果たしている可能性がうかがえる。また、新規に設立された場合に支援できない理由として、「財源がない」(25%)という意見が高かった。これらから、母親クラブの普及には、予算化が可能な状況を整えることが必要と考えられる。また、活動財源の補助の予算を考える前に育成のための財源を確保することが必要と思われる。

(臺、森川、斉藤)

1.2. 活動の活性化

現在の活動である「育児中の親に対する交流の機会」などを今後も期待する一方で、「住民の子育てに対する関心の高まり」や「地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること」など、メンバー間だけでなく、住民を巻き込んでいく活動のように地域全体への効果を期待していることがうかがえる。このような活動展開が必要であると思われる。

地域の活動実態が地域ニーズ、行政の期待と合致しているかどうか、中央から(全国地域活動連絡協議会)の方針や期待の影響が大きいと考えられるが、地域での検

討が必要と考えられる。

(臺、森川、斉藤)

1.3. 活性化のための児童館への期待

活性化のために寄せられた意見を分類すると、「人材」・「地域連携」・「広報」・「施設・拠点」・「事業」に分類することができた。

「人材」では、担い手の人材発掘から始まり人材育成にわたる流れの中で、新たな担い手を探すこと、また人材育成の重要性を指摘する声があった。さらに、地域組織活動の活性化のためには「人材」の役割について、指導・けん引的立場ではなく、コーディネーターとしての役割が活性化のために重要であると指摘する意見が多く寄せられた。

次に「地域連携」についても多くの回答があり、「地域を巻き込んで」、「地域との連携を図り」などの言葉に代表されるように、社会全体で子育てを支えていく体制づくりを挙げる内容が多く、地域の力を活用することの有効性に触れた意見が多くあった。この点については、先の「人材」項目で、コーディネーターとしての役割が求められていることと大きくつながっており、地域と地域、地域と児童館、子育て支援団体同士、子育て支援団体と児童館、さらには子育て中の親同士、異年齢層を結ぶ役割が期待されている。

また、「広報」については、地域組織活動を広く住民に知ってもらうことで、活動の周知だけでなく、人材発掘や事業の集客、他団体との連携のきっかけ作りなどに結び付くので活性化されとの意見があった。

「事業」については、少ない予算の中で、これまでのマンネリ化した事業を脱し、利用者のニーズに沿った形での事業の充実が活性化につながるとの意見があった。具体的事業については、子育て中の親同士の交流事業や乳幼児向けの事業の充実が望まれていることがわかった。

「施設・拠点」については、施設自体のハードや施設の運営というソフト面も含め、乳幼児から高齢者までユニバーサルに使い勝手のよい施設であることが、魅力ある施設としての第一歩として活性化の要因として挙げられた。

(牛玖)

1.4. 都道府県への期待

都道府県について、地域組織活動の状況把握についておよそ7割弱が存在を把握していた。一方で、次世代育成支援対策行動計画に「母親クラブ」の記載があるのはおよそ半数であるものの、全体の8割がその活動の必要性を認識していた。これまで「母親クラブ」が地域で培ってきた活動実績および今後の地域の課題を考えると、「母親クラブ」への期待が大きいことがうかがえる。

「母親クラブ」に関する具体的な支援では、補助・助成金があるのがおよそ8割であった。地域活動連絡協議会

の設置は8割弱で、その事務局は都道府県庁や都道府県立の児童館など、都道府県によってさまざまであった。

これらのことから、各市町村はきめ細かに「母親クラブ」の活動を支援するのに対し、都道府県は補助・助成金の提供や地域活動連絡協議会の設置・運営など、「母親クラブ」の基盤を組織的に支える役割を担っていることが改めて確認できる。「母親クラブ」が地域に根ざした活動を継続的に展開するには、今後ともこの役割を継続し、さらなる強化をしていくことが期待される。

(臺、大久保)

2. 児童館と母親クラブの連携

2.1. 児童館と母親クラブの役割の明確化

児童館と母親クラブ研修の2日目に行われたグループワーク「児童館による地域組織活動との連携課題を探る」において、参加者の所属する各児童館の現状等を共有しつつKJ法により課題を抽出した。そこで浮かび上がったのが、参加者全員が地域組織活動への関与の仕方とその度合いが難しいとの課題を抱えていた。さらに、指定管理者が児童館を運営している場合、指定管理者自体が地域について把握しきれていないので、地域と連携した活動がなかなかできないでいることが明らかになった。また、母子保健の分野や公民館等の他の行政施設との連携が弱くなるなどの課題が見える。

「児童健全育成の動向」で、児童健全育成推進財団から児童館の約4割で指定管理制度を導入していると情報提供があり、また、今回の「母親クラブと児童館調査」でも約3割が導入していると回答していることから、今後もこの割合は増えるものと推測される。

このような課題の解決に向けて示唆となるのが、研修初日に行われた「事例検討ー児童館と地域組織活動の連携・支援ー」での東京都地域活動連絡協議会の会長の事例発表で、地域に住む母親クラブの会員は、地域情報の宝庫で、地域人材や地域資源をよく知っているとのこと。「児童館がこういう事業を行うにあたって、誰か人材はいないだろうか、しかもタダで!」という相談は母親クラブの得意とするところで、また、事業を実施する際の人的資源ともなっているとの報告があった。地域を知る母親クラブの役割は重要になってくるものと思われる。

行政の直営児童館であれば、地域を充分把握し、地域との連携も良好であるとは言いきれるものではないが、本研修から浮かび上がった課題をもとに児童館と母親クラブの役割分担について検討を加えると、指定管理者制度の導入が進む今こそ、児童館を拠点とした地域活動において地域情報を持っている母親クラブの利点を生かし、母親クラブ会員向けの活動に加え、母親クラブとして地域貢献的活動にどれだけ目を向けられるかがポイントとなり、そこに母親クラブの役割があることが認められた。

しかしながら、母親クラブ役員の高齢化や固定化、事

業のマンネリ化に伴うニーズとのギャップ、事務局任せによる組織の自立性などの課題もある一方、児童館側にも職員異動に伴う母親クラブの活動理解が不足するなどの面も見られ、改善の余地がある。

その解決の糸口となるのが、研修初日に行われた基調講演「児童館の地域支援でかわる子育て環境」の中での指摘である。事務局と地域組織活動の関係については、立場と役割を明確にし、事務局が地域組織活動の自立を目指すのであれば、そのプロセスを小出しにしないで、明確なステップを明示しつつ全体像をあらかじめ示す手法を検討して欲しいとのことであった。また、歴史ある活動こそ世代交代が重要で、後継者や新入会員の不足により、活動の停滞が懸念されるとの危惧を抱いていた。この点については、事例発表者である山梨県昭和町児童センター主催の発表においても、母親クラブという組織がなくなると、必然的に母親クラブが担っていた地域の子育て支援事業がなくなるとの訴えから会員増へ結びついた事例も報告された。

これらのことから、母親クラブの利点を生かした役割として児童館と地域を結ぶ役割を認識し、児童館はそれに向けたコーディネートを行うことで、それぞれの役割を明確化することが効果的であると考えられる。

2.2. 地域ニーズの多様化と児童館の多機能化

児童館と母親クラブ研修の初日に行われた「児童健全育成の動向」で、より最近の児童館のトレンドとして、これまで小学生を児童館の中心的活動対象としてとらえていたものが、乳幼児と中高生にその対象を双方に広げ活動を展開するようになった児童館が増えてきていることが挙げられた。また、このような変化の一方、対象や活動を特化した動きが見られるとの指摘があった。

中高生向けに特化した児童館としては、杉並区立児童青少年センター（愛称：ゆう杉並）や児童館という位置付けではないものの佐倉市ヤングプラザなどのように、音楽バンドの利用が可能なスタジオを備えるなど中高生の活動支援を展開している施設も見られるようになって久しい。

一方、乳幼児を対象としたものとしては、各地の子育て支援センターが積極的な活動を展開し、加えて母子保健の分野や公民館が家庭教育の視点から乳幼児向けの事業を展開したり、居場所を作ったりしているところである。しかし、今回の「母親クラブと児童館調査」において、母親クラブの活性化における児童館への期待の自由記述<施設拠点としての強化に関すること>のなかに、中高生の活動の場づくり、子育て支援の拠点として、子育ての相談の場というような内容が見られた。

行政区内に乳幼児や青少年に特化した施設がある地域では、施設によってその役割分担が可能であるが、対象を特化した施設がない場合や同一行政区内にそのような施設があったとしても地域的偏りがあるなどした場合、

児童館がその独自性により時間帯や空間を工夫しながら、多機能化を展開する必要がある。すでに工夫を凝らして多方面に事業展開している児童館も多いが、単発的な活動で終わってしまうことも見受けられるところである。

地域ニーズの多様化については行政全般について言えることであるが、その一方、硬直化した予算や人員削減の中で、これまでのやり方で行政のみで多様化した地域ニーズに応えることが難しくなっている。ましてやそのようなあおりは往々にして出先機関に真っ先に押し寄せる傾向があり、児童館を取り巻く状況は厳しいと言わざるを得ない。

そこで、児童館の多機能化にとって、母親クラブのような地域組織活動との連携することによって、児童館のみでは担いきれない活動が可能となり、母親クラブの利点を生かした地域全体で地域の子育てを支える支援ができる機能や、豊富な子育て経験をもとにした成長発達に応じた対応ができる機能、専門的でないが実体験からの共感性をもった個別相談等への対応ができる機能など、地域住民の様々なニーズに応えることが可能となることが期待される。

(牛玖、斉藤)

2.3. 児童館の役割

＜地域との連携を図る＞

グループワークの結果、現状と課題としては、「仲良くなるためには」、「地域との連携を図るには」、「施設利用上の留意点」にまとめられた。利用者から地域の人たちとのコミュニケーションを図り、地域の団体・組織との信頼関係と協働事業などが重要であることが提起されている。また、そのためには、地域にある資源を把握することから、地域商店で買い物をするなど、地域の人々との繋がり、ネットワークや人間関係の構築することが必要であると考えられる。

地域との連携には、①地域に目を向ける、②地域資源を把握する、ことが重要であるが、このためには、たえず問題意識を持つことと同時に、グループワークで提起された「コミュニケーション術の向上」や「コーディネーターとしての素養」などを「たえずスキルアップ」することが必要であると考えられる。

＜コーディネーター機能＞

都道府県では活動へのアドバイスとコーディネーター機能を期待しているが、市区町村では活動のアドバイスと事業の共催、会場の貸与などを期待しており、ギャップがみられる。コーディネーターや活動の助言などコミュニティワークを児童館職員がどれだけ出来るかが課題と思われる。

児童厚生員については、児童福祉施設最低基準によりその資格が定められているところだが、児童館の対外的要になりうる児童館長についてはその規定がなく、専門的研修を受けることなく、仕事に就いていることがあり、

その場合はコーディネーターについての理解が乏しい面があるといえる。

また、児童厚生員の役割として、「遊びに対する援助(プレイワーク)」とあわせてソーシャルワーク技術(ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク)を駆使すること必要とされている³⁾。従って、コミュニティワークとして地域住民への働きかけや巻き込みができる児童館長、児童厚生員がいることと、そのコミュニティワークも仕事であるとの認識を持つことが重要である。

地域を巻き込んだ地域福祉活動と健全育成の活動を展開するためには、研修会のグループワークで提起された地域資源の把握が大切と思われる。これらを再認識するための研修会の開催が必要と考えられる。

＜地域組織活動支援＞

従来ある「子ども会活動」の支援は、比較的新しい「子育てサークル」「子育てネットワーク活動」に比べて「事務局を担っている」「資金の援助」をする割合が高く、活動基盤を行政が担っていることが推測される。現在活発な活動をしている「子育てサークル」には「施設や物品の貸与」「情報の提供」が子ども会、子育てネットワークより高くなっており、実質的活動を支援している様子が見えてくる。「イベントへの呼びかけや協力」はどの地域組織にも実施しており、「児童館との連携を促している」は「子育てサークル」(15.5%)「子育てネットワーク活動」(8.9%)「子ども会活動」(8.0%)の順であり、子育て支援の新しい活動に対して、児童館の支援が重要であると考えられる。

児童福祉法により児童厚生施設として位置づけられた児童館は、乳幼児期の子育て支援に限定されがちな状況にあって、学童期の育ちに重要な役割を担ってきた⁴⁾と評価されている。また、厚生労働省では子育て中の親子が気軽に利用できる子育て支援の拠点整備を進めているが、平成19年度から従来のひろば型、センター型に加えて児童館型を新たに設け「地域子育て支援拠点事業」を実施している。これらから、児童館の役割は今後一層、子育て支援において重要となり、大きく期待されている。

＜地域づくりの拠点として＞

児童館は、単に児童の健全育成の機能のみならず、積極的に障害のある児童や高齢者障害者等とのふれあい・交流活動をするなど、赤ちゃんから高齢の方、障害のある人もない人も、いろいろな人との豊かな出会いの場として、ボランティアを含め地域住民とともに地域福祉活動を展開しているところもある⁵⁾。しかし、このような活動を展開するためには、地域とのつながりが重要であり、普段からの連携が求められる。そこで、母親クラブとの協働が考えられる。母親クラブは、高齢者を含めた世代間交流ではないと考えられるが、母親クラブ調査や本調査から、ほとんどのクラブで交流活動が実施されており、児童館のコーディネーター機能と母親クラブの地域とのつながりが協働することで、大きな活動展開が可能

になると考えられる。母親クラブの地域資源のネットワークを活用することは、母親クラブのPRや活動の活性化につながり、また児童館の役割として有効な活動領域と思われる。

(山口、斉藤)

V. 結論

母親クラブの普及については、未組織地域に対するPR活動が重要で、子育て支援に有効であることや活動内容を広報する情報提供とあわせて、育成するための予算化が可能となるような方策が必要である。また、現母親クラブの活性化を図る方策として、児童館との連携強化と地域のニーズにあった、例えば高齢者を含めた活動展開を図る必要があることが重要である。このためには児童館の役割が期待される。

地域組織活動の活性化、地域福祉の向上を考える場合、児童館長や児童厚生員のより高いコミュニティワークのスキルが必要とされる。地域ぐるみの視点を持つことなど児童館職員の資質の向上を図ることが重要である。児童館を福祉予防施設と捉え、そのための児童館職員のあり方や処遇、研修参加などの体制の整備を検討することも必要であろう。

謝辞：調査にご協力くださった関係者の皆様に感謝します。

【文献】

- 1) 斉藤進他、子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究(1)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第43集、2007、pp165-180
- 2) 斉藤進他、子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究(2)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第44集、2008、pp165-185
- 3) 吉澤英子、「児童厚生員の資質と役割」、児童健全育成推進財団編集、『児童館 理論と実践-ENCYCLOPEDIA-』、2007、pp.114-117
- 4) 福川須美、「子育て支援施設におけるひろば型支援の拡大と課題」、生協総合研究所編、『生協総研レポート「子育てひろば」の効果測定』、2009、pp.79-83
- 5) 飯野貢、「児童館と地域社会」、児童健全育成推進財団編集、『児童館 理論と実践-ENCYCLOPEDIA-』、2007、pp.74-77

表1 母親クラブの有無(問2-1) <問2>

問1 市区町村区分	件数	ある	ない	知らない	無回答
合 計	875	358	471	45	1
	100.0	40.9	53.8	5.1	0.1
指定都市	8	3	4	1	-
	100.0	37.5	50.0	12.5	-
中核市	24	20	4	-	-
	100.0	83.3	16.7	-	-
一般市	395	217	156	22	-
	100.0	54.9	39.5	5.6	-
特別区	9	3	4	2	-
	100.0	33.3	44.4	22.2	-
町	360	101	240	18	1
	100.0	28.1	66.7	5.0	0.3
村	76	13	61	2	-
	100.0	17.1	80.3	2.6	-
都道府県	42	37	3	2	-
	100.0	88.1	7.1	4.8	-

表2 母親クラブの活動に対する支援(問2-2) <問6-2>

問1 市区町村区分	件数	事務局を担っている	児童しほて館との連携を	情報の提供	施設や物品の貸与	イベントへの呼びかけや協力	資金の援助	府県研修の開催	その他	支援はしていない	無回答
合 計	358	107	145	182	127	148	232	-	21	5	-
	100.0	29.9	40.5	50.8	35.5	41.3	64.8	-	5.9	1.4	-
指定都市	3	-	2	2	-	-	2	-	-	-	-
	100.0	-	66.7	66.7	-	-	66.7	-	-	-	-
中核市	20	5	12	12	3	9	15	-	2	-	-
	100.0	25.0	60.0	60.0	15.0	45.0	75.0	-	10.0	-	-
一般市	217	60	92	97	62	84	157	-	12	3	-
	100.0	27.6	42.4	44.7	28.6	38.7	72.4	-	5.5	1.4	-
特別区	3	1	3	1	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	33.3	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-
町	101	35	34	61	52	48	53	-	7	2	-
	100.0	34.7	33.7	60.4	51.5	47.5	52.5	-	6.9	2.0	-
村	13	6	1	8	8	5	5	-	-	-	-
	100.0	46.2	7.7	61.5	61.5	38.5	38.5	-	-	-	-
都道府県	37	6	8	19	2	10	18	3	5	4	-
	100.0	16.2	21.6	51.4	5.4	27.0	48.6	8.1	13.5	10.8	-

1/12

表3 母親クラブの活動内容(問2-3) <問6-1>

問1 市区町村区分	件数	流産・文化活動	親子及び世代間交流活動	児童発達活動に関する	児童の活動事故防止のため	活動場等児童館利用	人ごんには赤ちゃん事業	把握していない(都道府県のみ)	その他、児童館に居る児童	無回答
合 計	358	343	173	180	28	2	78	1	0.3	
	100.0	95.8	48.3	50.3	7.8	0.6	21.8	0.3		
指定都市	3	3	1	2	-	-	-	-	-	
	100.0	100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	
中核市	20	20	12	15	1	-	7	-	-	
	100.0	100.0	60.0	75.0	5.0	-	35.0	-	-	
一般市	217	212	115	123	23	2	50	-	-	
	100.0	97.7	53.0	56.7	10.6	0.9	23.0	-	-	
特別区	3	1	1	-	1	-	1	-	-	
	100.0	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	
町	101	93	40	36	3	-	18	1	1.0	
	100.0	92.1	39.6	35.6	3.0	-	17.8	1.0		
村	13	13	4	4	-	-	2	-	-	
	100.0	100.0	30.8	30.8	-	-	15.4	-	-	
都道府県	37	32	25	31	7	-	6	10		
	100.0	86.5	67.6	83.8	18.9	-	16.2	27.0		

表4 母親クラブの活動の満足度(問2-4)

問1 市区町村区分	件数	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である	無回答
合 計	358	132	177	42	1	6
	100.0	36.9	49.4	11.7	0.3	1.7
指定都市	3	1	2	-	-	-
	100.0	33.3	66.7	-	-	-
中核市	20	9	9	2	-	-
	100.0	45.0	45.0	10.0	-	-
一般市	217	79	110	24	1	3
	100.0	36.4	50.7	11.1	0.5	1.4
特別区	3	1	2	-	-	-
	100.0	33.3	66.7	-	-	-
町	101	37	46	15	-	3
	100.0	36.6	45.5	14.9	-	3.0
村	13	5	7	1	-	-
	100.0	38.5	53.8	7.7	-	-

2/12

表5 母親クラブの効果(問2-5) <問6-3>

	件数	母親クラブが増加したこと	子育て支援の機会が充実すること	保育所・幼稚園との連携が強化されること	子育てに関する情報が得やすくなること	子育てに関する相談窓口が設けられること	子育てに関するイベントが開催されること	子育てに関する情報提供が充実すること	子育てに関する活動が行われること	子育てに関する活動が行われること	子育てに関する活動が行われること	子育てに関する活動が行われること	子育てに関する活動が行われること	その他	特に効果はない	備考 等
間1 市区町村区分																
合 計	358 100.0	18 5.0	312 87.2	146 40.8	75 20.9	104 29.1	101 28.2	17 4.7	126 35.2	140 39.1	136 36.1	159 44.4	43 12.0	10 2.8	2 0.6	-
指定都市	3 100.0	-	3 100.0	2 66.7	-	-	-	-	1 33.3	2 66.7	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-
中核市	20 100.0	3 15.0	15 75.0	5 25.0	1 5.0	9 45.0	6 30.0	-	9 45.0	6 30.0	3 15.0	8 40.0	3 15.0	-	-36.0	-
一般市	217 100.0	10 4.6	184 84.8	86 39.6	44 20.3	65 30.0	52 24.0	4 1.8	88 40.6	77 35.5	25 11.5	106 48.8	28 12.9	8 3.7	1 0.5	-
特別区	3 100.0	-	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	2 66.7	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-
町	101 100.0	3 3.0	94 93.1	44 43.6	23 22.8	27 26.7	37 36.6	11 10.9	25 24.8	45 44.6	8 7.9	40 39.6	8 7.9	2 2.0	1 1.0	-
村	13 100.0	2 15.4	12 92.3	7 53.8	5 38.5	7 7.7	3 23.1	2 15.4	3 23.1	8 61.5	-	3 23.1	2 15.4	-	-	-
都道府県	35 100.0	3 8.6	27 77.1	16 45.7	9 25.7	21 60.0	10 28.6	3 8.6	25 71.4	10 28.6	7 20.0	16 45.7	13 37.1	5 14.3	-	2

表6 今後、母親クラブに期待すること(問2-6) <問6-4>

[illegible]

3/12

表7 今後の母親クラブの活動の必要性(問3-1) <問7-1>

問1 市区町村区分	件数	う必要 だと思	思必 う要 ない と	わ か ら な い	無回 答
合 計	516 100.0	84 16.3	111 21.5	314 60.9	7 1.4
指定都市	5 100.0	-	1 20.0	4 80.0	-
中核市	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-
一般市	178 100.0	23 12.9	31 17.4	120 67.4	4 2.2
特別区	8 100.0	-	2 33.3	4 66.7	-
町	258 100.0	46 17.8	59 22.9	151 58.5	2 0.8
村	63 100.0	14 22.2	16 25.4	32 50.8	1 1.6
都道府県	5 100.0	-	-	4 80.0	1 20.0

表8 母親クラブの活動がない理由(問3-2) <問7-2>

問1 市区町村区分	件数	かけがなかつた	当事業者からなかった	他の地域組織活動で充分だった	行政で機動的に育成しようとしたかった	特に必要性を感じなかった	その他	無回答
合 計	84 100.0	42 50.0	24 28.6	26 31.0	15 17.9	14 16.7	3 3.6	
指定都市	-	-	-	-	-	-	-	
中核市	1 100.0	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	
一般市	23 100.0	12 52.2	5 21.7	5 21.7	3 13.0	6 26.1	-	
特別区	-	-	-	-	-	-	-	
町	46 100.0	20 43.5	15 32.6	17 37.0	8 17.4	7 15.2	2 4.3	
村	14 100.0	9 64.3	4 28.6	3 21.4	1 28.6	1 7.1	1 7.1	
都道府県	0	-	-	-	-	-	-	

4/12

5/12

表10 (設立された場合)支援可能な内容(問3-4) <問7-4>

6/12

問 1 市区町村区分	件数	検討している事業を拡大する時間がない	優先すべき他事業がある	財源がない	需要がない	活動が活発でない	母親クラブでの活動	その他	無回答
合 計	44 100.0	12 27.3	1 2.3	7 15.9	11 25.0	1 2.3	4 9.1	6 13.6	2 4.5
指定都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中核市	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-
一般市	12 100.0	2 16.7	-	3 25.0	3 25.0	-	1 8.3	2 16.7	1 8.3
特別区	-	-	-	-	-	-	-	-	-
町	26 100.0	7 26.9	1 3.8	4 15.4	6 23.1	1 3.8	2 7.7	4 15.4	3 11.5
村	5 100.0	3 60.0	-	-	2 40.0	-	-	-	-
都道府県	0	-	-	-	-	-	-	-	-

問1 市区町村区分	件数	自主活動だから	か他の組織がある	事優先すべき他から	住民から必要	な活動から	力から得られない協力	その他	無回答
合 計	425 100.0	98 23.1	139 32.7	24 5.6	87 20.5	8 1.9	-	49 11.5	20 4.7
指定都市	5 100.0	0 40.0	2 20.0	1 20.0	-	1 20.0	-	-	-
中核市	3 100.0	-	2 66.7	-	1 33.3	-	-	-	-
一般市	151 100.0	35 23.2	46 30.5	13 8.6	24 15.9	4 2.6	-	22 14.6	7 4.6
特別区	6 100.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-	1 16.7	1 16.7
町	210 100.0	54 25.7	76 36.2	9 4.3	40 19.0	2 1.0	-	20 9.5	9 4.3
村	48 100.0	6 12.5	11 22.9	-	22 45.8	1 2.1	-	5 10.4	3 6.3
都道府県	4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	-	-	-	1 25.0	1 25.0

表13 子ども会の活動への支援(問4-1)

問1 市区町村区分	件数	事務局を担っている	児童館との連携を促している	公民館との連携を促している	情報の提供	施設や物品の貸与	イベントへの呼びかけや協力	資金の援助	その他	子ども会活動がない	支援はしていない	無回答
合 計	875	258	72	143	298	242	308	292	53	59	170	45
	100.0	29.5	8.2	16.3	34.1	27.7	35.2	33.4	6.1	6.7	19.4	5.1
指定都市	8	1	1	-	2	2	4	6	1	-	-	-
	100.0	12.5	12.5	-	25.0	25.0	50.0	75.0	12.5	-	-	-
中核市	24	9	2	4	12	6	11	13	3	1	4	-
	100.0	37.5	8.3	16.7	50.0	25.0	45.8	54.2	12.5	4.2	16.7	-
一般市	395	119	39	57	139	104	137	139	26	14	75	23
	100.0	30.1	9.9	14.4	35.2	26.3	34.7	35.2	6.6	3.5	19.0	5.8
特別区	9	1	3	-	3	2	2	1	-	3	1	1
	100.0	11.1	33.3	-	33.3	22.2	22.2	11.1	-	33.3	11.1	11.1
町	360	112	22	70	130	113	136	114	21	23	76	16
	100.0	31.1	6.1	19.4	36.1	31.4	37.8	31.7	5.8	6.4	21.1	4.4
村	76	16	4	12	12	14	18	19	2	18	13	4
	100.0	21.1	5.3	15.8	15.8	18.4	23.7	25.0	2.6	23.7	17.1	5.3

表14 子育てグループ(サークル)などへの支援(問4-2)

問1 市区町村区分	件数	事務局を担っている	児童館との連携を促している	公民館との連携を促している	情報の提供	施設や物品の貸与	イベントへの呼びかけや協力	資金の援助	その他	子育てグループ活動がない	支援はしていない	無回答
合 計	875	96	136	73	429	330	310	87	99	105	95	31
	100.0	11.0	15.5	8.3	49.0	37.7	35.4	9.9	11.3	12.0	10.9	3.5
指定都市	8	1	1	1	6	3	2	5	5	-	-	-
	100.0	-	12.5	12.5	75.0	37.5	25.0	-	62.5	-	-	-
中核市	24	3	8	3	15	10	9	3	3	-	4	-
	100.0	12.5	33.3	12.5	62.5	41.7	37.5	12.5	12.5	-	16.7	-
一般市	395	39	72	36	214	148	157	42	61	21	47	15
	100.0	9.9	18.2	9.1	54.2	37.5	39.7	10.6	15.4	5.3	11.9	3.8
特別区	9	5	5	8	8	5	3	1	1	-	1	-
	100.0	-	55.6	-	88.9	55.6	33.3	-	11.1	-	11.1	-
町	360	42	44	28	173	143	126	36	23	55	35	12
	100.0	11.7	12.2	7.8	48.1	39.7	35.0	10.0	6.4	15.3	9.7	3.3
村	76	12	5	5	12	19	13	6	5	29	8	4
	100.0	15.8	6.6	6.6	15.8	25.0	17.1	7.9	6.6	38.2	10.5	5.3

7/12

表15 子育てネットワーク活動への支援(問4-3)

問1 市区町村区分	件数	事務局を担っている	児童館との連携を促している	公民館との連携を促している	情報の提供	施設や物品の貸与	イベントへの呼びかけや協力	資金の援助	その他	子育てネットワーク活動がない	支援はしていない	無回答
合 計	875	120	78	37	289	137	225	54	72	269	107	80
	100.0	13.7	8.9	4.2	33.0	15.7	25.7	6.2	8.2	30.7	12.2	9.1
指定都市	8	3	2	1	7	2	2	1	2	-	-	-
	100.0	37.5	25.0	12.5	87.5	-	25.0	12.5	25.0	-	-	-
中核市	24	2	1	4	8	4	4	4	3	3	8	-
	100.0	8.3	4.2	-	33.3	16.7	16.7	16.7	12.5	12.5	33.3	-
一般市	395	54	42	16	139	59	117	27	40	95	51	41
	100.0	13.7	10.6	4.1	35.2	14.9	29.6	6.8	10.1	24.1	12.9	10.4
特別区	9	4	5	6	6	4	5	1	1	1	1	1
	100.0	44.4	55.6	-	66.7	44.4	55.6	-	11.1	11.1	-	11.1
町	360	49	24	18	117	62	85	21	24	126	40	30
	100.0	13.6	6.7	5.0	32.5	17.2	23.6	5.8	6.7	35.0	11.1	8.3
村	76	8	3	2	12	8	12	1	2	44	8	6
	100.0	10.5	3.9	2.6	15.8	10.5	15.8	1.3	2.6	57.9	10.5	7.9

表16 児童館の有無(問5-1)

問1 市区町村区分	件数	あ	な	無回答
合 計	875	527	342	6
	100.0	60.2	39.1	0.7
指定都市	8	7	1	-
	100.0	87.5	12.5	-
中核市	24	23	1	-
	100.0	95.8	4.2	-
一般市	395	316	77	2
	100.0	80.0	19.5	0.5
特別区	9	9	-	-
	100.0	100.0	-	-
町	360	156	202	2
	100.0	43.3	56.1	0.6
村	76	15	59	2
	100.0	19.7	77.6	2.6

8/12

表17 指定管理者制度の導入状況(問5-2)

問1 市区町村区分	件数	い す べ て の 館 で 導 入 し て	一 部 の 館 で 導 入 し て	導 入 し て い な い	無 回 答
合 計	527 100.0	91 17.3	55 10.4	378 71.7	3 0.6
指定都市	7 100.0	3 42.9	4 57.1	-	-
中核市	23 100.0	7 30.4	5 21.7	11 47.8	-
一般市	316 100.0	65 20.6	42 13.3	207 65.5	2 0.6
特別区	9 100.0	-	2 22.2	7 77.8	-
町	156 100.0	15 9.6	2 1.3	139 89.1	-
村	15 100.0	1 6.7	-	13 86.7	1 6.7

表18 指定管理者は、市町村内の団体か(問5-3)

問1 市区町村区分	件数	は い	い い え	無 回 答
合 計	146 100.0	134 91.8	12 8.2	-
指定都市	7 100.0	6 85.7	1 14.3	-
中核市	12 100.0	12 100.0	-	-
一般市	107 100.0	100 93.5	7 6.5	-
特別区	2 100.0	-	2 100.0	-
町	17 100.0	15 88.2	2 11.8	-
村	1 100.0	1 100.0	-	-

9/12

表19 (指定管理者選考基準)地域との連携に関する観点の有無(問5-4)

問1 市区町村区分	件数	盛 り 込 ま れ て い る	盛 り 込 ま れ て い な い	無 回 答
合 計	146 100.0	120 82.2	22 15.1	4 2.7
指定都市	7 100.0	6 85.7	1 14.3	-
中核市	12 100.0	9 75.0	3 25.0	-
一般市	107 100.0	91 85.0	14 13.1	2 1.9
特別区	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0
町	17 100.0	12 70.6	4 23.5	1 5.9
村	1 100.0	1 100.0	-	-

表20 児童館と地域組織活動の連携状況(問5-5)

問1 市区町村区分	件数	と と も 図 れ て い る	あ る 程 度 図 れ て い る	あ ま り 図 れ て い な い	全 く 図 れ て い な い	無 回 答
合 計	146 100.0	36 24.7	95 65.1	14 9.6	-	1 0.7
指定都市	7 100.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6	-	-
中核市	12 100.0	1 8.3	10 83.3	1 8.3	-	-
一般市	107 100.0	31 29.0	67 62.6	9 8.4	-	-
特別区	2 100.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0
町	17 100.0	3 17.6	12 70.6	2 11.8	-	-
村	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-

10/12

表21 児童館と他の行政組織や公民館等の施設との連携(問5-6)

	件数	とても図れている	ある程度図れている	あまり図れていない	全く図れていない	無回答
問1 市区町村区分						
合 計	433	35	262	91	21	24
	100.0	8.1	60.5	21.0	4.8	5.5
指定都市	4	-	4	-	-	-
	100.0	-	100.0	-	-	-
中核市	16	-	12	2	1	1
	100.0	-	75.0	12.5	6.3	6.3
一般市	249	19	153	57	9	11
	100.0	7.6	61.4	22.9	3.6	4.4
特別区	9	1	7	-	-	1
	100.0	11.1	77.8	-	-	11.1
町	141	12	81	30	9	9
	100.0	8.5	57.4	21.3	6.4	6.4
村	13	3	5	2	2	1
	100.0	23.1	38.5	15.4	15.4	7.7

表22 母親クラブに対する児童館の代表的役割(問5-7)

	件数	とこになる ディネーター	技術的 支援をする	資金的 援助をする	事業の 共催	ス活動 へのアドバイ	会場を 提供する	わからない	母親 クラブがない	特 にない	無 回答
問1 市区町村区分											
合 計	527	55	31	20	154	128	166	41	149	38	27
	100.0	10.4	5.9	3.8	29.2	24.3	31.5	7.8	28.3	7.2	5.1
指定都市	7	1	1	-	1	2	1	-	3	-	1
	100.0	14.3	14.3	-	14.3	28.6	14.3	-	42.9	-	14.3
中核市	23	3	3	-	12	6	12	-	3	1	1
	100.0	13.0	13.0	-	52.2	26.1	52.2	-	13.0	4.3	4.3
一般市	316	35	18	13	110	82	114	21	73	23	12
	100.0	11.1	5.7	4.1	34.8	25.9	36.1	6.6	23.1	7.3	3.8
特別区	9	1	-	-	-	3	4	3	3	1	1
	100.0	11.1	-	-	-	33.3	44.4	33.3	33.3	11.1	11.1
町	156	13	9	7	27	35	32	16	59	12	12
	100.0	8.3	5.8	4.5	17.3	22.4	20.5	10.3	37.8	7.7	7.7
村	15	1	-	-	3	-	3	1	8	1	-
	100.0	6.7	-	-	20.0	-	20.0	6.7	53.3	6.7	-
都道府県	41	17	5	-	8	24	24	1	-	-	1
	100.0	41.5	12.2	-	19.5	58.5	58.5	2.4	-	-	-

11/12

<都道府県のための調査項目>

表23 都道府県内の地域組織活動状況把握(問1)

	件数	把握している	把握していない	把握していない
都道府県	42	2	26	14
	100.0	4.8	61.9	33.3

表24 地域組織活動への補助・助成金(問3-1)

	件数	ある	ない
都道府県	37	31	6
	100.0	83.8	16.2

表25 次世代育成支援対策行動計画上に「母親クラブ」に関するもの有無(問4)

	件数	ある	ない	無回答
都道府県	37	19	16	2
	100.0	51.4	43.2	5.4

表26 地域活動連絡協議会の有無(問5-1)

	件数	ある	ない
都道府県	37	28	9
	100.0	75.7	24.3

表27 都道府県地域活動連絡協議会の事務局(問5-2)

	件数	都道府県庁で担当	都道府県立児童館で担当	協議会(都道府県社会福祉協議会)で担当	市町村立児童館(青少年センター)で担当	単独で事務局を設ける	その他
都道府県	28	5	6	2	2	8	5
	100.0	17.9	21.4	7.1	7.1	28.6	17.9

表28 母親クラブがない地域に、活動の必要性(問8)

	件数	とても必要	必要	あまり必要でない	わからない	無回答
都道府県	42	7	26	2	6	1
	100.0	16.7	61.9	4.8	14.3	2.4

12/12

表29 母親クラブ等地域組織活動活性化のため児童館へ期待すること

<地域連携に関すること>46件

- 1 家庭・地域が連携して子どもの成長を見守り、健全に育む地域の力を向上させることが重要
- 2 地域住民や異年齢での交流が活性化され、団体活動が充実するとともに、地域社会も子育て家庭に関心が高まるような支援を行うこと。
- 3 交流を深めること。
- 4 多世代が交流し、地域の特性を生かした活動展開が図られるような取り組み。
- 5 地域の開かれた児童館として母親クラブ等のほか、学校、幼稚園等とも連携を図っていききたい。
- 6 児童センター、子育て支援センター、保育所の複合施設があり、週に2回の育児学級、年8回程度の母親学級を実施しています
- 7 児童館が核となって学校をはじめとする地域の関係機関と団体等に働きかけ連携を図ること
- 8 日頃から児童館の行事等に地域住民や団体等に参画してもらい
- 9 地域運営委員会等の定期的な開催により、地域と共に活動できる体制、情報収集に取り組む
- 10 地域のコーディネーターとしての役割は大きい
- 11 今後も連携、協力がクラブ活動の活性化につながるものとする。
- 12 母親クラブとの共催事業を実施する
- 13 地域に開かれた児童館となる
- 14 組織との連携を計る
- 15 多くの世代の人たちが協力し合えるように、人と人をつなぐ役割も期待したい
- 16 地域と連携し、大人から子ども全ての異年齢、他世代交流を考えた取り組みをしたらよいと思う。
- 17 児童館の地域性を生かし、児童館への一般入館者、特に小学生から中高生と母親クラブとの交流ができるとよいと思う。
- 18 母、子にとどまらず、あらゆる年代に働きかけることで児童館も母親クラブも共に活性化出来るのでは。
- 19 交流の機会を提供すること。
- 20 児童が地域と関わりながら育っていくことを期待しています。
- 21 各児童館の連携、児童館とサークルや各種団体との連携が必要である。
- 22 地域で活躍する方々に協力を得る
- 23 年々参加者減の折、地域への活動を広げ虐待防止者となっていてほしい。
- 24 地域組織と連携を図っていければと思います。
- 25 地域とのコーディネーター役
- 26 より密度の濃い児童館と母親クラブとの連携
- 27 地域活動支援の充実、拡充を図り、これまで以上に地域社会と密接な連携を取る
- 28 児童センターとしては、母親クラブを含め多くのボランティアが活動しているので、今後もボランティアと連携
- 29 現体制の中で期待することは難しいが、児童館が活動のためのコーディネーターとしての役割をもつことが望ましい。
- 30 サークル活動やイベント実施の際の会場提供等がスムーズにいくよう、今後とも十分な連絡を図っていききたい。
- 31 活動を活性化するために、文化面で支援して下さる地域の方々の協力をお願いしたいと思っています。
- 32 児童の健全育成に対し児童館を拠点とし、関係機関、団体などとネットワークを築き、ネットワークを有効に活用すること。
- 33 地域や他団体とのコーディネーター等
- 34 異年齢(乳幼児や中高生)との交流。
- 35 良きコーディネーターとなれるようにしていきたい。
- 36 もっと地域に出向き、地域の実情や子育て情報等の知識の収集に努め、地域組織活動に活かしてもらいたい。
- 37 地域と行政が一体となった子育て家庭の支援。
- 38 場の提供や世帯間の交流等、活動の中でも連携した内容はできればと思います。
- 39 中高生との連携
- 40 他の母親クラブの活動を知り、児童館側より、より良い活動ができるよう(会員の意見を聞きながら)共働していく。
- 41 地域組織との活動連携
- 42 地域ボランティアの受入れ、支援
- 43 地域住民の交流の拠点となることを期待する。
- 44 地域組織との連絡調整と、協力を継続して行っていくこと。
- 45 連携を持ちながら活動していきたい。
- 46 児童館との連携は今後の検討課題として捉えている。

<施設拠点としての強化に関すること>41件

- 1 児童館の中に母親クラブが発足すれば大変望ましい。
- 2 拠点としての活動。
- 3 児童センターでは、子供連れで集まれる場所の提供や育児に対するアドバイス、情報提供など行っていききたいと考えています。
- 4 母親クラブの活動に対するアドバイス
- 5 子育てについての相談機能を今後も充実させて欲しい
- 6 地域住民に支えられた、地域住民に必要な児童館として活躍できるよう努めていくこと。
- 7 活動への協力
- 8 当町の母親クラブは歴史も古く児童館ごとに組織されている
- 9 児童館に事務局を置き活動は一体となり車の両輪で進められている
- 10 児童館は母親クラブ活動の拠点としての施設であることから、クラブの育成は児童館の大きな役割と考える。
- 11 まずは気軽に利用できること。
- 12 母親の日頃の拠所となるような児童館運営が必要
- 13 子育て支援等の児童館環境づくりを幅広く進めることを期待します。
- 14 技術的な支援やアドバイス、サポート
- 15 児童館を地域子育て支援センターにして、地域活動と子育て支援のマッチングをはかっています。一層の拠点化を期待しています。
- 16 地域内の子育て支援の拠点施設として、子どもと子育てを支援すること。
- 17 会場の提供
- 18 組織や資金力の弱いクラブへ継続的な支援を期待したい。
- 19 少子高齢化の中、子どもの声が元気に聞こえるまちの拠点であってほしい
- 20 乳幼児が過ごしやすいうような施設の整備
- 21 現在、地域組織活動団体と連携が図れる拠点
- 22 情報提供
- 23 様々な活動の拠点となるような役割を児童館が果たしていききたいと思っています。
- 24 児童館には積極的な児童館運営を期待
- 25 事務局機能の強化。
- 26 会場の提供
- 27 子育て中の親に情報提供、場の提供をし、母親クラブ活動に参加することで活性化した子育て支援を行っていけるようにする。
- 28 きめ細かい情報の提供
- 29 情報提供
- 30 居場所の提供。
- 31 地域の中高生に活動の場を提供
- 32 中高生を支援する組織の拠点づくり

- 33 みんなが集まりやすい、明るくキレイな児童館であってほしい。
- 34 1館1組織母親クラブを持つ(地域のニーズなど知ることができる。また地域に児童館を知ってもらうことができるメリットがある)
- 35 地域の子育て支援を支援するために、地域における子育て支援の拠点施設機能の充実が期待されます。
- 36 地域組織活動へのアドバイス
- 37 活動への助言や安全な場所の提供を通じて、母親クラブや子ども会の育成助長を図ってほしい。
- 38 児童館が核となって、地域組織活動を活性化していくことを期待します。
- 39 地域の子育て支援の拠点として多くの母親が気軽に来館できるような場に行きたい
- 40 子育て中の親同士の交流の場の確保の充実に期待する。
- 41 小学生対象の事業だけでなく、地域の子育て中の家庭全般が利用できる施設になるよう、使いやすい(安全面)場となるよう、改築も含めた事業の見直しをしてほしい。

<事業の充実に関すること>26件

- 1 子育てに取り組むサークル活動やネットワークづくり、ボランティアの支援と育成
- 2 行政主導型の運営から脱却した住民運営型の児童館(中学校単位等まで設置できるよう、国県補助金など投資的経費が必要)。
- 3 行事等への参加
- 4 子育て家庭の支援
- 5 子育て教室の開催
- 6 地域に住む高齢者をはじめとする様々な世代の人等とのふれあい活動を実施すること。
- 7 地域を巻き込んだ行事を行ってほしい。
- 8 連携した行事
- 9 共に目的を共有し、事業を展開してほしい
- 10 児童館がある地域で子どもが減少しているため児童館事業の参加者が少ない。これから児童館の必要性を考えていく必要があると思います。
- 11 「子育てひろばA型」を児童館等において実施することで、地域の乳幼児親子がいつでも気軽に無料で安全に利用できる地域のコミュニティ施設としての役割を期待する。
- 12 母親クラブの活動拠点となる子育て学習センター(市内6ヶ所)の未就学児童の保護者の活動に移動児童館活動で児童にかかる支援活動の幅を広げたい。
- 13 事業の共催の継続。
- 14 皆が楽しめるような活動を展開されていく事を期待。
- 15 子育て支援事業や子どもが対象のイベントを開催
- 16 時代の傾向や地域にあるニーズに基づき活動していく。
- 17 多くの親子に楽しんでもらえる行事の運営をしていきたい。
- 18 児童館子育て広場への参加で、子育て中親子との交流をはかる。
- 19 母親クラブへの積極的な活動。
- 20 イベントや行事等の提案やアドバイス
- 21 児童館の幼児クラブ内で保護者に対して情報交換の場や食育等の啓発に期待する。
- 22 母親クラブとの連携をより密にし、事業を進めていく
- 23 子育て支援事業の充実
- 24 行事の共催等より積極的な支援を期待している
- 25 子育て相談や仲間作りの援助をして行きたい
- 26 子育て中の親同士の交流の機会

<人材に関すること>22件

- 1 これまで培ってきた経験をもとに、更なる人材の確保を期待している。
- 2 新たなクラブ活動の人材発掘
- 3 組織の自主性を引き出すための取り組み。
- 4 地域組織活動を継続させるための人材育成
- 5 活動の活性化のために人材の掘り起こし等。
- 6 引き続きの協力体制
- 7 マンネリ化にならない工夫、情報提供。
- 8 母親クラブの活動の自主性を出来る限り尊重する
- 9 地域の力を生かすために理解と支援を惜しまないことを期待したい。
- 10 役員の負担が大きく、後継者難の一員となっているため、助言指導により負担軽減への協力をしてもらいたい。
- 11 子どもたちのために楽しく活動できる技術的支援を行う
- 12 母親(時には父親にとっても、祖父母にとっても)子どもたちにとっても、こころよい居場所となるような職員の呼びかけ、場の提供等が必要(職員の資質、研修が必要)
- 13 児童館職員との連携
- 14 地域組織活動の育成と指導者の養成を期待したい。
- 15 ボランティア精神の共有
- 16 地域組織活動の活性化のため動いておられますので、引続いて頑張ってください。
- 17 児童の利用していない時間を使用してもらったり、運営についてアドバイスしたりして、母親クラブと児童健全育成に関する事を協力し合える関係を作りたい。
- 18 活動に関する助言指導
- 19 児童館の職員の意識改革を行う。たとえば、住民主体の児童館運営を考える。企画する等(主役は、こどもであり、住民であるという意識を持つ)。母親クラブはその住民の代表である。
- 20 活動に対する客観的な助言
- 21 活動へのアドバイス。
- 22 クラブ活動内容や運営に対しての適切な助言が期待される。

<広報に関すること>13件

- 1 幅広い年齢層の児童が利用できるよう広報活動に努めてほしい
- 2 児童館を活用した活動内容のPR
- 3 地域組織活動のPR
- 4 子育て活動の重要性を訴える啓発
- 5 後継者のリクルートのためのPR活動への協力を強化していただきたい
- 6 施設の利用を広く呼びかけることを望む
- 7 新たな会員募集の手伝い
- 8 クラブ会員をつくる
- 9 来館者に母親クラブやサークルに誰でも気軽に参加できるようPRしてほしい
- 10 情報発信の基点として、地域にPRしてほしい
- 11 各地域に母親クラブの存在及び知名度を高めていき、より活動を円滑にさせたい
- 12 母親クラブへの参加の呼びかけ。
- 13 より地域に根ざした活動となるよう、クラブ加入者の機運の盛り上げに努める。

表30 児童厚生員研修会日程表

児童館から飛び出そう！～児童館と地域で創るまちづくり～		
日程・内容		
1日目(平成20年11月26日水曜日)		
(1)開会・オリエンテーション	研修室	13時00分～13時15分[15分]
－1 主催者挨拶		
・ 日本子ども家庭総合研究所主任研究員	斉藤 進	
－2 日程説明		
(2)「児童健全育成の動向」	研修室	13時15分～14時00分[45分]
＜厚生労働省・児童健全育成推進財団・全国地域活動連絡協議会より、児童健全育成をめぐる近年の動向や21年度予算の重点課題、最近の取組み等についての情報提供＞		
情報提供者		
・ 厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課児童健全育成専門官	柳沢邦夫	
・ 児童健全育成推進財団課長	阿南健太郎	
・ 全国地域活動連絡協議会常勤理事・事務局長	松本健一	
(3)基調講演「児童館の地域支援でかわる子育て環境」	研修室	14時10分～15時20分[70分]
＜児童館が母親クラブをはじめとする地域組織活動を支援することで得られるメリットや地域づくりのヒントなどについての講演＞		
講 師		
・ 日本子ども家庭総合研究所主任研究員	斉藤 進	
(4)「事例検討 ―児童館と地域組織活動の連携・支援―」	研修室	15時30分～17時30分[120分]
＜児童館による地域組織活動との連携事例や支援の手法について2事例を巡り、事例発表のみならず、参加者同士の意見交換から児童館が行う地域支援のポイントを考える＞		
事例発表		
・ 東京都地域活動連絡協議会会長	小林睦子	
・ 山梨県昭和町児童センター主査	保坂たまみ	
司会進行		
・ 児童健全育成推進財団課長	阿南健太郎	
2日目(平成20年11月27日 木曜日)		
(1)「パネルディスカッション 児童館と地域組織活動の明日をつくる」	研修室	10時00分～12時00分[120分]
＜4名のパネリストによる児童館と地域組織活動の明日を展望する＞		
パネリスト		
・ 日本子ども家庭総合研究所主任研究員	斉藤 進	
・ 児童健全育成推進財団課長	阿南健太郎	
・ 東村山市立栄町児童館館長	鈴木昌弘	
・ 茨城県地域活動連絡協議会会長	根津 久美子	
司会進行		
・ 横浜市立大学准教授	臺 有桂	
(2)「児童館による地域組織活動との連携課題を探る」グループワーク	研修室	13時00分～15時30分[150分]
＜児童館と地域組織活動との連携課題について参加者によるグループワークを行い、参加者が抱える課題や背景を共有し、解決手法を検討し検討結果を共有する＞		
全体進行		
・ 厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課児童健全育成専門官	柳沢邦夫	
(3)閉会行事	研修室	15時30分～15時45分[15分]
主催者挨拶		
・ 日本子ども家庭総合研究所主任研究員	斉藤 進	

- ・ 利用者と職員
の関わり方
あまりいい
ところがない
- ・ 年輩者(高
齢)の方はプ
ライドや強い
我もあり、気
遣いを遣う後
手が多い
- ・ 年輩者(高
齢)の方はプ
ライドや強い
我もあり、気
遣いを遣う後
手が多い
- ・ 職員が地域(地元)を
知らない(地理的、人
間的な面)
- ・ 地縁との連携がまだ
弱い(地域の方への協
力を要請するのにとま
どってしまふ、市民館
や学校、町会)
- ・ 育成する認識に欠け
ている(行事中心に
なっている、広く声を
かけていない)
- ・ ボランティアさんをつ
ながけていけない
- ・ 館の行事を手伝った
り、参加したりしてく
れない
- ・ 得意なストラクター
中心、主動になってい
るのでは
- ・ 事前の打ち合わせも
なく、今日買とて言
われても
- ・ ボランティアさんとの
連絡不足(行事の時
にボランティアさんが
来なかった)
- ・ 入ったて頃いているボラ
ンティア(個人)さん、そのうち
NPO団体さん、そのうち
その人数にさいて考え
方、個人の相性など
でいろいろ、広く声を
めいたものがある。
- ・ 担当者があそびま
(各々がそれぞれに情
報を持って実とめたり)
職員間の連絡不足で
支障
- ・ サークルへの支援に
ついて、職員が共通
の認識をもてない
- ・ 昨年もこうであつたか
ら、行事等新しい考え
で進んでいない
- ・ 子育てサークルさん
が勝手に倉庫のもの
を使っていて。(勝手に
に倉庫に物を置いて
いく)
- ・ 使用物などを出すのに
嫌がる職員
- ・ 一般団体さんと同じ案
件で部屋を借りている
が、サークルがつん
で、どうにかしてほし
いなどと言ってきた
- ・ 勝手に物を使うこと
に問題ありと言ふ
- ・ 今年の役員となり
ていないかつた
- ・ サークルは意図的に
つくるもの

【地域との連携を図るには】

【施設利用上の留意点】

表 31-2

【仲良くなるためには】	【地域との連携を図るには】	【施設利用上の留意点】
「負けるが勝ち」相手にも多量な相手、どんな嫌な方であつても、こちらが広い心で受け入れ、一段落いいる。地味にやさしい言葉かけをして、言葉がけをしていく。受けとめる。こちらから発信！する。 元気なあいさつを大切にします。 笑顔で接する 名前と呼ぶ 利用者さんの話を聞く お互いに大切な相手、対等な立場で接する いつも笑顔であいさつする	地域を散歩する。声をかける まず明るくあいさつして出迎える 声をかけよう(コミュニケーションはおいさきづから)笑顔で接する ふだんから、お互いの活動に顔を出す 名前をおぼえて声をかけていく(館内、館外) 地域の商店で買い物をする(直売所など) 顔と名前を覚えよう お互いに休を使つて手伝う	約束事が必要だと思う 言いにぐいこにも笑顔でサラリと伝える 「ちよとこれば…」と思うほどはまづこいなくて伝える ルールを明確に表記し、手順をこまわり書きなどで掲示する 施設利用者にに対して意識して対平等にかかわる 来館の方のたのみに約束(利用についての)のプリントを配布と同時に読もしていく 地域のキーパーソンと親しく ボランティアの方々の声、情報を常につかむ、努力をする 地域の人のネットワーブを大切にしよう 担当者を明確にし、職員が気持ちよく協力していく 地域の行事に参加する協力する 職員が学びコミュニケーションをとる 自分から地域の方々と積極的に関わろう

表31-3

【児童館職員】	
- 地域を好きになれる。 - 地域の幸せに貢献する意識を持つ。 - 地域に詳しくなる(地域の特徴、地域の人)。 - 職員同志が仲良くなる、協力する。 - たえずスキルアップ。 - コミュニケーション術の向上。	- 問題がわきても一緒に考えていこうという姿勢が大切。 - 公平性、平等性、匿名性、和善、サービス精神、一過性な判断力。 - コーディネートとして業務に常について持つ。 - 応援しようとする姿勢が大切。 - 来館者を大切にしている。誰に対しても笑顔で接する。
【母親クラブ・利用団体】	
- 子どもが主人公の施設。 - 自分たちの活動が子どもたちのためであることの共通理解、認識、自覚。私利私欲でないから子育て支援をしてい	- 子どもが利用しやすいように整える意識を欠かしてはならない。 - 子どもの意見をサポートしていったら良いと思う。 - 代表者の方とのコミュニケーションを大切に！ - すべての活動が子どもたちのためであること、共通理解、認識、自覚。私利私欲でないから子育て支援をしてい - ルールを守ることができる(平等に)。 - 児童館のあり方を理解してもらおう。 - 協力的である。 - 自分たちの団体だけでなく、地域への貢献も意識できる。
【施設】	
- 利用上の注意を館内に貼出すこと(パンフレット化する)。 - 団体を利用しやすいように整える意識を欠かしてはならない。 - 施設の整備に努める。	- 公平性におけるサービスを物理的に提供する(可能な範囲)。 - 安全・管理、地域的情報提供の場。 - 来館しやすい雰囲気作り。明るく清潔さ。

表31-4

4. 地域資源を活用して児童館、母親クラブの連携強化、活動充実を図るための素材

【プログラム・事業名】

【人(職種)】

【店】

【施設・建物】

化する

っているのでは
えたらと思

勢が大切

6頁目上

1

母親クラブと児童館に関する調査（市区町村）

【調査のお願い】

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素から当研究所の子ども家庭福祉の研究事業については格別のご協力いただき、厚くお礼申し上げます。当研究所は、昭和13年に愛育研究所として開所以来、わが国の母子保健と児童福祉の研究を続けて参りました。昭和39年、厚生省の全額国庫補助をうけて日本総合愛育研究所と改称し、国立の児童問題研究所にかわる機関となりました。その後、平成9年に現在の日本子ども家庭総合研究所に改称し現在に至っております。（研究所の詳細は、<http://www.aiiku.or.jp>をご覧ください）

近年、子育て支援サービスが積極的に進められておりますが、子どもたちの健全育成を目的にボランティア活動を展開する母親クラブの活動も、地域の子育て支援の担い手と大いに期待されています。

そこで、母親クラブの一層の活性化と未組織地域への普及を図ることを目的に本調査を実施することになりました。本調査は児童館と母親クラブ等との連携、及び今後の期待についての実態を調査し、子育て支援方策を検討する基礎資料となるものです。

回答は、すべて統計的に扱われ、県自治体のお名前が表に出ることはありません。また調査結果はすべて学術研究の資料として使われ、他の目的のために利用されることはありません。結果は当研究所ホームページ等を通じて報告させていただきます。

ご多忙とは存じますが、趣旨・目的をご理解のうえ、調査にご協力くださいますようお願いいたします。

平成21年1月

（社福）恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所
母子保健研究部 主任研究員 斉藤 進

【記入にあたっての注意】

1. 回答は、あてはまる事項の番号に、一つだけ○印をつけてください。
2. 複数回答等の指示がある場合は、その指示に従ってください
3. () 等記入欄は該当事項を記入してください。
4. 回答記入後、同封の返信用封筒（切手は不要）で返送してください。
5. 回答は、平成21年2月28日（土）までに投函してください。
6. 調査についての問い合わせは、下記までお願いします。

〒106-8580 東京都港区南麻布5-6-8

日本子ども家庭総合研究所 斉藤 進（サイトウ ススム）

FAX 03-3473-8408 電話 03-3473-8332（直通）

E-mail saito@aiiku.or.jp URL <http://www.aiiku.or.jp>

母親クラブと児童館に関する調査【市区町村用調査票】

問1. 市区町村区分をお教えください。

1. 指定都市 2. 中核市 3. 一般市 4. 特別区 5. 町 6. 村

問2. 貴自治体にある母親クラブについて伺います。

問2-1 母親クラブはありますか。

1. ある 2. ない（→問3へ） 3. 知らない（→問3へ）

問2-2 母親クラブの活動に対して、その所管課はどのような支援をしていますか。（複数回答可）

1. 事務局を担っている 2. 児童館との連携を促している
3. 情報の提供 4. 施設や物品の貸与
5. イベントへの呼びかけや協力 6. 資金の援助
7. その他（具体的に： ）
8. 支援はしていない

問2-3 母親クラブはどのような活動を実施していますか。（複数回答可）

1. 親子及び世代間交流・文化活動 2. 児童養育に関する研修活動
3. 児童事故防止のための活動 4. 日曜等児童館利用活動
5. こんにちは赤ちゃん事業
6. その他、児童福祉の向上に居する活動
（具体的に： ）

問2-4 母親クラブの活動に満足していますか。

1. 満足している 2. やや満足している
3. あまり満足していない 4. 不満である

問2-5 母親クラブがあることでどのような効果がありましたか。（複数回答可）

1. 母親クラブが増加したこと
2. 子育て中の親同士の交流の機会ができた
3. 子育て中の親の相談の機会、場が確保されたこと
（次頁に続く）

【困ったこと】

(→問4へ)

問3-2 問2-1 において、母親クラブが「2ない」、もしくは、あるかないか「3.わからない」と回答した方に伺います。

問3-1 貴自治体では今後、母親クラブの活動が必要だと思いますか。

1. 必要だと思う 2. 必要ないと思う (→問3-6へ) 3. わからない (→問3-6へ)

問3-2 今まで何故母親クラブの活動がなかったのでしょうか(複数回答可)

1. 当事者からの働きかけがなかった 2. 他の地域組織活動で充分だった
3. 行政で積極的に育成しようとしなかった 4. 特に必要性を感じなかった
5. その他 (具体的に:)

問3-3 母親クラブにどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

1. 新規の母親クラブづくり 2. 子育て中の親同士の交流の機会の確保
3. 子育て中の親の相談の機会、場の確保 4. 子育て関連情報の提供
5. 子育てに関する研修・講座の実施 6. 子育てに関するイベントへの参加者の増加
7. 子育て中の親子の保健・福祉問題の早期発見の機会の拡充
8. 地域への安心、安全の取り組み 9. 子育て中の親のよりどころとなる活動
10. 住民の子育てに対する関心への高まり 11. 子どもに対する犯罪被害の防止
12. 地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること
13. その他 (具体的に:)
14. 特に期待はしていない

問3-4 貴自治体において母親クラブが設立された場合、どの程度の支援が可能でしょうか。

1. 積極的な支援をする (→問4へ)
2. 支援したいができない 3. 支援しない 4. わからない

4

4. 子育て関連情報が子育て中の親に届きやすくなった

5. 子育てに関する研修・講座が実施されるようになったこと

6. 子育てに関するイベントへの参加者が増加したこと

7. 子育て中の親子の保健・福祉問題の早期発見の機会ができた

8. 地域への安心、安全の取り組みがなされるようになったこと

9. 子育て中の親にとって、よりどころとなる活動となっている

10. 住民の子育てに対する関心が高まった

11. 地域活動で子どもと大人が顔見知りになる機会が増えた

12. 子どもに対する犯罪被害の防止につながっている

13. その他 (具体的に:)

14. 特に効果はない

問2-6 今後、母親クラブにどのようなことを期待しますか。(複数回答可)

1. 新規の母親クラブづくり 2. 子育て中の親同士の交流の機会の確保
3. 子育て中の親の相談の機会、場の確保 4. 子育て関連情報の提供
5. 子育てに関する研修・講座の実施 6. 子育てに関するイベントへの参加者の増加
7. 子育て中の親子の保健・福祉問題の早期発見の機会の拡充
8. 地域への安心、安全の取り組み 9. 子育て中の親のよりどころとなる活動
10. 住民の子育てに対する関心への高まり
11. 地域活動で子どもと大人が顔見知りの機会となること
12. 子どもに対する犯罪被害の防止
13. その他 (具体的に:)
14. 特に期待はしていない

問2-7 母親クラブの活動があつて良かったと思うこと、もしくは困っていることがあれば箇条書きでご記入ください。(記入後は、問4へ)

【良かったこと】

3

問 3-5 母親クラブが設立された場合、「2.支援したいができない」「3.支援しない」あるいは支援が可能かどうか「4.わからない」理由は何ですか。(1つ選択)

1.検討する時間がない(深く検討していない)	2.事業を拡大するつもりはない
3.優先すべき他の事業がある	4.財源がない
5.需要がない	6.母親クラブの活動が活発ではない
7.その他(具体的に:)	

問 3-6 問 3-1 で母親クラブの活動が「2.必要ないと思う」あるいは、必要かどうか「3.わからない」と回答した理由は何ですか。(1つ選択)
(→問 4へ)

1.自主活動だから	2.他の組織があるから
3.優先すべき他の事業があるから	4.住民からの需要がないから
5.活動が活発ではないから	6.母親クラブの協力が得られないから
7.その他(具体的に:)	

=====(ここからは全員の方がご回答ください)=====

問 4. 母親クラブ以外の地域組織活動に関する支援について伺います。

問 4-1 子ども会の活動に対して、その所管課はどのような支援をしていますか。(複数回答可)

1.事務局を担っている	2.児童館との連携を促している
3.公民館との連携を促している	4.情報の提供
5.施設や物品の貸与	6.イベントへの呼びかけや協力
7.資金の援助	
8.その他(具体的に:)	
9.子ども会活動がない	10.支援はしていない

問 4-2 子育てグループ(サークル)(※1)などの活動に対して、その所管課はどのような支援をしていますか。(複数回答可)

1.事務局を担っている	2.児童館との連携を促している
3.公民館との連携を促している	4.情報の提供
5.施設や物品の貸与	6.イベントへの呼びかけや協力
7.資金の援助	
8.その他(具体的に:)	
9.子育てグループ活動がない	10.支援はしていない

※1 子育てグループ：育児中の母親の集まり、グループ。

問 4-3 子育てネットワーク活動(※2)の活動に対して、その所管課はどのような支援をしていますか。(複数回答可)

1.事務局を担っている	2.児童館との連携を促している
3.公民館との連携を促している	4.情報の提供
5.施設や物品の貸与	6.イベントへの呼びかけや協力
7.資金の援助	
8.その他(具体的に:)	
9.子育てネットワーク活動がない	10.支援はしていない

※2 子育てネットワーク：子育て中の親と地域を連携する機関。情報交換や講座の開催、子育てグループのサポートなど、その地域の子育て中の親のニーズに対応するなかで、多岐にわたる活動が展開されている。

問 5. 児童館について伺います。

問 5-1 児童館がありますか。

1.ある	2.ない(→問 7へ)
------	-------------

問 5-2 児童館に指定管理者制度を導入していますか。

1.すべての館で導入している	2.一部の館で導入している
3.導入していない(→問 5-6)	

問 5-3 指定管理者は、あなたの市町村内に住所のある団体ですか。

1.はい	2.いいえ
------	-------

問 5-4 指定管理者の選考基準に、地域との連携に関する観点は盛り込まれていますか。

1.盛り込まれている	2.盛り込まれていない
------------	-------------

問 5-5 児童館所管市町村担当課からみて、児童館と地域組織活動の連携は図れていると思いますか。
なお、問 5-2 で「一部の館で導入している」と回答された方は、指定管理者制度を導入している館を想定してお答えください。

1.とても図れている	2.ある程度図れている
3.あまり図れていない	4.全く図れていない

問 5-6 児童館所管市町担当課からみて、児童館と他の行政組織や公民館等の施設との連携は図れていると思いますか。問 5-2 で「一部の館で導入している」と回答された方は、指定管理者制度を導入している館を想定してお答えください。

1. とても図れている	2. ある程度図れている
3. あまり図れていない	4. 全く図れていない

問 5-7 児童館と母親クラブについて伺います。
母親クラブに対する児童館の代表的役割を2つお選びください。

1. コーディネーターとなる	2. 技術的支援をする
3. 資金的援助をする	4. 事業の共催
5. 活動へのアドバイス	6. 会場を提供する
7. わからない	8. 母親クラブがない
9. 特になし	

問 6. 母親クラブなど地域組織活動の活性化のために児童館に期待することはありますか。

問 7. ご回答者のご自身のことについてご記入ください。(平成 21 年 1 月 1 日現在)

役職	
ご担当郵局	

★ご協力ありがとうございました。★

添付の封筒で平成 21 年 2 月 28 日(土)までにご投函ください